

青刈草類の利用と

その効果について

七戸理太郎

乳牛は農業経営を多角化し、余剰労力を活用し、その産乳は貴重な食品として国民保健上欠くことのできない重要な地位を占め、かつ肥効の高い糞尿は地力の増進に大きな役割を果し、山岳、河川敷等未利用地の多いわが国においてはこれらの遊休地積を活用して牧草と化し、乳牛を通じて国内食糧の自給態勢を確立することは極めて重要なことであることはいうまでもありません。

ところが一昨年から昨年にかけての酪農ブームに惑はされて、矢鱈に購入飼料に依存したかけ出しの酪農家はトンデモナイところで悲鳴をあげておるようですが、これは青刈草類の価値をハッキリ解っていない結果です。元来酪農経営の場合飼料費の割合は総経費の五割とされております。また購入飼料を必要とする場合でも牛乳収入の二割を限度とすべきであつて、それ以上になると赤字になる危険が多いと言われいております。殊に低乳価の最近ではマイナスの危険がますます多くなりますので、是非とも品質の良い青刈草類の活用が必要であります。

一体牛は極めて大きい第一胃を持つておりますが、その大きさは八斗から一石以上も入るのです。これが八分目以上満たされ

いと喰べた飼料が第一胃の中に沢山住んでいるアメーバや細菌の作用を十分受けられませぬし、反芻などもうまく行かないことになりまます。更に良質な青刈草類の中には豊富な各種栄養成分の外ビタミンが沢山含まれておりますが、これらは牛の保健上極めて重要なものであります。なお乳牛に最も恐ろしい卵巣腫という病気がありますが、この病気を治すには、高価な脳下垂体のホルモンを応用するか又はこれまで与えておつた穀類を全部廃して草類で飼養しなければ治すことができません。この外に発情がハッキリ解らないとか、なかなか妊娠しないものなどに対して良質青刈飼料の効果は満点です。

以上のように酪農経営に青刈草類の利点は極めて大きなものがございます。これについては農学博士松岡氏が宮崎並びに東京で、農地一反歩で年産二〇石(厳密にいうと蛋白質はあまりましたが飼料単位は足りません。結論として一七石位が適當でしょう)の乳牛飼料を自給した有名な試験成績もありません。

北海道でもラデノクロパーとかルーサンなどのように蛋白質含量の多い牧草類が採り上げられて来ましたが、一般に青刈草類に対する認識もこれまでとは違つて地力の

良い小面積から沢山の収穫を挙げる集約経営に變つて来たことはまことに結構なこととす。今先進地のアメリカでは家畜の飼料をどんな割合で与えているかと申しますと大体第一表の通りです。

第一表

飼料	家畜					
	乳牛	肉牛	山羊	綿羊	馬	豚
乾草	三%	三%	三%	三%	三%	三%
放牧	六%	六%	六%	六%	六%	六%
サイレージ及	二%	二%	二%	二%	二%	二%
びストローパー	九%	九%	九%	九%	九%	九%
穀類	三%	三%	三%	三%	三%	三%
その他の濃厚飼料	三%	三%	三%	三%	三%	三%

右の表の中乾草放牧、サイレージ、ストローパー(少し早く実を採り残つた莖葉を乾したもの)が粗飼料で、残りが濃厚飼料です。

以上の表で解るように酪農経営の進んだアメリカでも、粗飼料に依存する面が反芻家畜では極めて大きいということができま

す。夏季草地の力を高め、主にこれを利用することが酪農成功の鍵となるわけです。この場合電牧等を利用して草の若いうちに繰り返して放牧するならば申分ありません。放牧や繋牧は草があまり短くならずと次の再生を妨げることになりますので、この注意を要します。更に使つた跡には糞尿を撒布することが必要です。その外青刈草類を刈取つて与える場合、刈取時期の選

定は極めて重要なこととあります。あまり育つてからですと収量は多くなりますが、蛋白質等主要な栄養分は減つて来るものです。今赤クロパー成分の収穫時期による米

養分の変化を示せば第二表の通りです。

第二表

收穫時期	養分			
	菁前期	小蕾期	菁期	開花盛花結実期
粗灰	二一	二二	二二	二一
纖維	二九	二六	二二	一九
無窒素物	三六	三三	二八	二二
可溶性脂肪	三三	三三	二六	二二
粗脂	五〇	五二	五二	五〇
アマイド	二七	二七	二七	二七
蛋白質(純)	一七	一七	一七	一七
蛋白質(粗)	二九	二八	二八	二八

以上のように、その成分は草の生育に伴なつて變るものですから、努めて良質のものを利用することが必要です。なお青刈の青刈の蛋白質含量はいね科の青刈の二倍以上もあり、カルシウム分は五倍以上も含まれておりますので、肥料といね科の適當なる組合せは極めて大切なこととあります。

青刈草類を沢山与えた場合、塩を三〇匁位に増すことを忘れてはなりません。元來植物の中にはカリ分が多いので、これが腎臓から体外に出る場合ナトリウム分を一所に出しますので、塩でナトリウムを補うことが必要なのであります。また青刈草類は直ちに利用するのが最も良いのですが一度にでき過ぎて仕末に困るような場合には、サマーサイレージにすることが得策であります。

日本の未利用地が悉く良質な牧草と化しその上に豊かな酪農が發展して、栄養分に富んだ食糧が国民の食膳にあふれるようになることを念願して筆をおきます。(クロパー便りより) (北海道農業改良課勤務)